

群馬の施設と交流

氷見・こもれびの里

旅行の46人受け入れ

富山を旅行中の群馬県富岡市の障害者支援施設「上州水士舎」の利用者46人が28日、氷見市鞍川の障害者支援施設「こもれびの里」を訪れ、ハンドベル演奏やコーラスなどで交流した。昼食には、こもれびの里が作る弁当を味わい、互いの活動に理解を深めた。



活動紹介し互いに理解

水士舎の利用者は27日から3泊4日の日程で富山、石川、岐阜3県を旅行している。

交流会では、水士舎側が授産活動としてハムやソーセージ、ジャムを製造していることを説明。利用者7人がハンドベルで「世界に一つだけの花」を演奏し、人気曲「USA」のダンスをにぎやかに披露した。

こもれびの里側は音楽サークルのメンバーが「小さな世界」を歌った。高齢者の見守りも兼ねて弁当の宅配を行っていることを紹介した。

水士舎は授産活動で得られた資金の一部を積み立てて2年に1度旅行している。金谷透理事長によると、利用者の世界が広がり、人間関係が深まる効果があるという。前日は立山黒部アルペンルートを訪問した。

こもれびの里の民谷万由美施設長は「ほかの施設の活動の様子を聞き、利用者にとって刺激になったと思う」と話した。